(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2009年3月23日(月) NO 35
地域から明るい未来を作ろう

東京地検は青年将校？

全く持っておかしな動きをしています。東京地検は不自然を地で行っている。秘書の政治資金規正法違反が逮捕容疑だそうです。しかも秘書は酩酊中川大臣の選挙区で立候補する予定の人でした。

権力者の暴走で、日本の未来に深く影響した悲惨な歴史があります。

それは「昔軍部、今官僚」です。

検察ファッショとは、特定の政治目的のために検察権を乱用、マスコミに働きかけて検察の目的をを有効に持って行く行為をいう。（高辻法務大臣・国会答弁）議会制民主主義の崩壊を意味するものとも言えないでしょうか。

まさに敗戦日本の本当の危機、泥船の様相です。

東京地検特捜が今暴走している。大本営（マスゴミ）のガダルカナル戦にたとえられています。

人々を導く関心は、人の立ち位置によって見えてくる認識は当然に違ってくる。

世界から日本がどう見られるか。益々相手にされなくなるのは間違いない。

検察は組織で仕組んでいるもので、小沢氏は絶対に勝てない。検察のシナリオはすでに出来上がっていると見るべきだとの分析もあります。

しかし起死回生の手は十分に残され、小沢氏本人の「器」が明日24日、分かります。

米の走狗マスゴミがどう反応し、するかが日本の未来につながっています。

情報をリークしながらマスゴミの様子を見る。そして活用するのが一般的な検察の手法。

私の40年の現場経験でも調査は足です。検察には足がない証明なのです。そもそも大した頭でない自覚と、謙虚さがない。調査は頭でなく体と足でするのです。

裁判委員制度の実施と人事の検察、どう見ても重要度は素人にも明かです。

検察は正義の権化？であれば、今何故小泉や竹中や森を東京地検はなぜ告訴、「ハメ」ないのか。

民主党も、小沢一人をマスゴミ（米の走狗）から守れないで、国民を絶対に守れるはずがない。

よく見て行きましょう。

相撲の覚悟

森に並ぶ歴史に名を刻む無能な総理を冠し。

私たちはこれから生きるため相当の覚悟が必要です。

北陸三県は全国の１％経済圏です。言わば日本の枝葉末節の部分で生活しています。

すでに成長モデルは世界の何処にもありません。世界、日本、地域、自分をどうするか、個人も会社も真剣に考え抜く視点が、立ち位置を決めるのが大事です。

平等に有るのは時間だけ。

現状にたいし有効な方策は率直にいって無い。

内部（自分含め）を固め、時間を無駄にしない。常識の世界です。

ポイントは日本人が忘れかけた「情緒」や「自然」から学ぶ姿勢だと思う。

怒られる覚悟で、最近思うのですが日本人の顔が変わった。得に女性の顔です。獣です。これは素直に進化と認めるべきなのか。

それに比べ、すべての「男」は女性から生まれたものですから。

男性は女性化を経て、獣に復活する過程と、ここでは「男」の言い訳をしておましょうか。

この週末から高速道路の土日祭日の値下げ、ＥＴＣ政策（ＩＴＳ事業）は、自民党と国交省と経団連という絵に描いたような「政官財の癒着。システム」が推進して来た私利私欲事業で、ＥＴＣが売れて笑いが止まらないのは、国交省からの天下りがひしめいてる財団法人「道路システム高度化推進機構」で、ここの理事長は「張富士夫」、そう、トヨタの会長だ。そして、ここへ情報を提供してる財団法人「高速道路調査会」も、国交省からの天下りの受け皿としてオナジミ、この理事長は、キャノン・経団連「御手洗冨士夫」だ。